

日本経済政策学会関西部会報告レジュメ

2004.3.27 (於 神戸大学)

『地域経済成長におけるイノベーション活動の影響』

アメリカ MSA の実証分析

(大阪府立大学客員研究員 玉井敬人)

報告内容

利用する基本モデル

経済成長を示す指標と分析対象とする地域単位

モデルの説明と推定結果

報告の概要

報告は 1990 年から 2000 年にかけてのアメリカ国内における地域成長の実証分析に関するものである。アメリカ国内の地域経済成長に関する実証分析は複数あるが、地域経済成長と地域イノベーション活動の関係を分析したものは不足しているので、その点について特に分析する。

近年、内生的経済成長理論(特にローマーの外部経済)や、クラスター論の研究の深化に伴って、イノベーション活動の重要性が広く認識されるとともに、分析単位を地域に置くものが増えてきた。しかしながら、地域イノベーション活動と地域経済成長の関係についての実証的分析は不足している。

全要素生産性によってそれを分析するものもあるが、「ソロー残差」の部分は研究の進展とともに削られてきた。そこで本報告では、別のモデル・手法をもとに地域経済成長とイノベーション活動の関係について分析する。

今回の分析結果から次の 3 点が顕著な特徴として明らかとなった。第 1 に、地域イノベーションは個別産業よりも都市における全産業の成長に対して重要であること。ただし、その弾力性は低いこと。第 2 に、地域の経済成長にとってはより高い教育を受けた人的資本や、金融機能の存在が重要であること。第 3 に、地域イノベーション規模を考慮した場合、人的資本や金融機能の存在は地域成長に対してその重要性が増すことが判明した。